

# 青森県生協連「2019 年度ユニセフのつどい」開催報告

1. 日 時 2019 年 9 月 24 日(火) 10:45~14:00
2. 場 所 青森市ねぶたの家ワ・ラッセ
3. 参 加 41 人

青森県民生協	10	津軽保健生協	2	講師 (ユニセフ)	1
コープあおもり	25			県生協連	3

## 4. スケジュール

- 講 師：(公財) 日本ユニセフ協会 団体・企業事業部 石尾 匠 氏
- テーマ：世界の子どもの置かれている現状と課題  
ユニセフによる支援活動の内容とその成果等について
- スケジュール

10:45~10:50	開会 青森県生協連会長 平野 了三
10:50~12:20	・ユニセフの概要説明 ・ワークショップ「妊娠と出産について」
12:20~13:00	昼食・休憩
13:00~13:35	東ティモール指定募金 支援活動報告
13:35~13:55	フロアの交流 ・各生協のユニセフ活動の紹介 ・本日の感想
13:55~14:00	閉会 県生協連常務理事 鎌田 敦子

## 5. 概 要

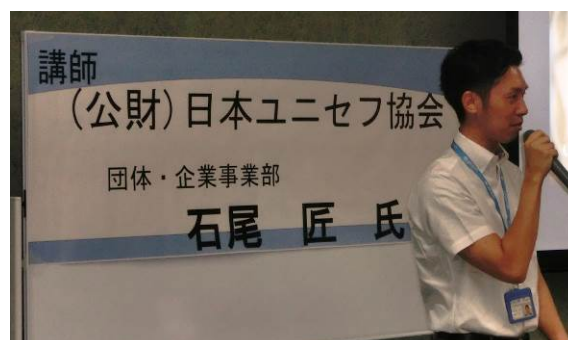


- ・「2019 年度ユニセフのつどい」を開催し、県内各生協より 41 名の参加がありました。
- ・平野会長より開催の挨拶があり、県内生協がそれぞれの特色を活かして取り組んでいるユニセフ活動はSDGsの取り組みの一つとしても意義が大変大きい、東ティモールへの指定募金の意味も改めて学びながら、取り組みを更に広げていきたいと思いますと述べました。

- 続いて、日本ユニセフ協会の石尾匠氏よりご講演いただきました。

### 1) ユニセフの概要について

- ・最初にアイスブレーキングの中で、グループワークを通じて、1 人の知恵もみんなで作る事で何倍ものアイデアに変化することを体験しました。
- ・続いて、ユニセフ（国際連合児童基金）は、世界の子どもの命と健康と未来を守るために活動している国連の機関である事、日本では 96%の人がユニセフを知っており、民間募金の 8 割が個人からである事、190 ヶ国で活動している事などを学びました。



## 2) ワークショップ「妊娠と出産について」

・グループでカードを使いながら以下のテーマを話し合い、まとめを発表しあいました。

①日本では妊娠から出産までの間、どのような支援が受けられるか。

②なぜ開発途上国で妊産婦死亡率が高いの？

③なぜ開発途上国で新生児死亡率が高いの？

※日本と比較して途上国には何が足りない？

各グループのまとめの中では以下のような点が出されました。



①母親学級・母子手帳の交付  
無料妊婦健診・保健師の指導  
マタニティビスク・出産手当  
金・職場内の配置換え・育  
休・産休・病院設備が良い。

②栄養・衛生状態が悪い・病  
院施設や医師・スタッフの不  
足・妊娠や出産に対する知識  
不足、教育の制度がない・健  
診がない・女性の立場が弱い

③衛生状態が悪い・病院や施  
設不足・栄養が悪い・低年齢  
出産・新生児に対する知識不  
足・子どもの定期健診がない  
・予防接種できない・妊娠  
は不浄という考え方

※不足している事

○支援（水・食料・保健師・  
助産師・・・）

○妊産婦を守る国の体制・意  
識

○医療体制の整備

○衛生環境・栄養面の不備

○知識

## 3) 東ティモール指定募金

北海道・東北地連の東北の生  
協がまとまって支援を続け  
ている東ティモールへの保  
健・栄養プログラムの活動を  
報告いただきました。最初は、  
クイズで東ティモールを知



るところから始まりました。



- ユニセフは、SDGs 3.2「2030年までに、新生児及び5歳児未満児の予防可能な死亡を根絶する」目標に向けて、保健・栄養支援プログラムを実施しており、「最初の1,000日の取り組み」が細やかにプログラムとして準備されていることが紹介されました。
- 医療従事者への研修は33回実施され、764人の保健員スタッフが修了し、不足していた小児用の医療機器を病院や保健センターに提供しましたが、村レベルではまだ不足しています。母親支援グループがエルメラの52村すべてに設立し、753人が研修を終えて地域住民への保健指導や巡回保健の手伝い・家庭訪問による妊産婦への保健指導等の活動をしています。ボランティアとして活動している女性や男性の声も紹介されました。最後に知って広める活動としてみなさんにできることが4つ紹介されました。

①ユニセフSNSへの参加②現地視察への参加③ユニセフ活動交流会への参加  
⇒④地域での学習会の開催

#### 4) 各生協からの報告とフロアの交流

県内の生協のユニセフの取り組みについて、コープあおもり加藤るみさんより、OCR注文書募金や地域ごとに実施しているハンドインハンド、「ユニセフのつどい」カレンダー募金等について報告がありました。青森県民生協川村天使さんからは、店頭でのカレンダー募金やレジやカウンターでの募金活動について報告がありました。最後に津軽保健生協の齋藤淳一さんより、病院内での募金活動がすすめられているが、ユニセフ活動についての学習をすすめながら、他の生協に学んでカレンダー募金などにも積極的に取り組んでいきたいとの報告がありました。

また、フロアの参加者から感想を出し合いました。

- 最後に鎌田敦子常務理事より、「今日はワークショップで妊娠と出産について学んだことで、指定募金の意義がより深く学べたと思うので、これからもみんなで活動を広げましょう」と閉会の挨拶があり、終了しました。

